

夢かなってク 通信

～ かなテク西部に入校し、自分の夢をかなえた方のメッセージです ～

「ロイター板」で飛びだし、越える

建築CADコース S・Sさん (52歳 女性)

自分自身の生き方を振り返ったとき、そしてこれからの自分の人生を考えたとき、「転職」という決断をしました。

その道のりは、まっすぐではなかったのですが、西部総合職業技術校という「ロイター板」のお陰で、希望の職種に就くことができ、充実感と達成感のある日々を過ごしています。

これからもチャレンジし続け、飛躍したい。

子育てに追われていた私が、ようやく一息ついて、わが身を振り返ったのは、末っ子が高校生になってからのことです。

それまで夢中で過ごしてきましたが、子どもが大きくなるにつれ、自分自身の「やりがい」について考えるようになりました。

当時は、医療機関で、補助的な仕事をしていて、毎日忙しくも充実していたのですが、周りを見回すとプロばかりです。医療従事者としての自信と誇りを持ちながら、働く姿をまぶしく感じていました。

今までより、主体的に社会とかかわりたい、自分の幅を広げたいと思っていたときに偶然目にしたのが、西部総合職業技術校でした。

以前から興味があったCADのコースがあるとテレビで紹介されていたのです。番組を見終わるころにはもう迷いはなく、すぐにハローワークへ話を聞きに行きました。

CADが学べるコースは分野ごとに分かれていましたが、以前から住宅の間取りを見て想像するのが好きだったので、建築CADコースを希望しました。入校の試験や面接があることを後で知り、学生時代以来の数学などをやり直したのも非日常的で面白い体験でした。

入校してみると建築CADコースの仲間は20名。年齢も経歴もさまざまな面々でしたが、意外だったのは女性のほうが少し多かったことです。

お二人の先生も男性と女性。建築ということで男性中心のイメージを持っていましたので、自分のあたまの古さと同時に、時代が変化していることを認識したのでした。

建築のことを全くわからない状態での入校。けれども、先生方は法規、構造、図面の基礎知識を、初歩から丁寧に教えてくれました。また、建築CADをゼロから学ぶ皆さんが一緒だったので、何十年ぶりの学生生活は、楽しいことばかりだったような気がします。

何より同じ目標に仲間とともに手ごたえを感じながら過ごせた日々でした。そして、半年の期間を過ぎるころにはかけがえのない仲間になっていました。

就職するために学んでいたのですが、肝心の就職活動はあまり芳しいものではありませんでした。

もちろん早々に就職先が決まった人もいましたが、なかなか決まらなかった人も多く、かくいう私も、未経験で年齢が高めだったことがあるようで何通も履歴書を書き面接をしました。

しかし、希望職種は絶望的だと思い、心残りはありましたが、異業種での就職を決めたのでした。

せっかく好きで技術を学んだ建築CADのことが忘れられずに、働きながら仕事を探していると、ある時、技術校の先生からお声をかけていただきました。

先生は、半年経っても、希望が叶わず就職した私のことを、そして、私の希望を覚えていて、意向に沿った仕事内容ではないかをご紹介くださったのです。当時CAD業務から離れていて、CADスキルに自信がなかったのですが、CADだけでなく、庶務業務もする仕事でしたので、ハードルも低く、是非、挑戦してみようと思いました。

こうして私は、修了して半年以上過ぎてからでしたが、希望と合致する職場にめぐり合い、就業することができました。就職して2年近くになりますが、いろいろな業務を任されていることと、念願のCADを使った業務も増えてきている中で、忙しいながらも充実感と達成感を感じている毎日です。

昨年も、種類の違うCADソフトの講習のため西部総合職業技術校で、スキルアップセミナーを受講しました。スキルアップを目指す人にはとても良いと機会だと思います。これからも、新しい知識や

技術を得るために技術校へ足を運ぶのが楽しみです。

私にとって、技術校は「ロイター板」のようなものでした。

ロイター板は、跳び箱を飛び越すときにより高く飛び越せるように跳び箱の前にある踏切板です。

転職を決めたとき、思い切ってジャンプするために必要だったのは、技術校です。まったく専門外の分野で働いていた私を異世界へ届かせてくれた。簡単ではなかったけれど、夢の扉の前までいざなってくれた。だから跳び箱を飛び越せた。

ありがとう。これからもよろしくね。神奈川県立西部総合職業技術校。